様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ４ 月 ２６ 日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2013～2015
課題番号：２５７７０１０９

研究課題名（和文）アメリカ文学における契約の概念と保険思想

研究課題名（英文）Changing Concepts of Contract and Insurance in American Literature

研究代表者
下條　恵子（Shimojo, Keiko）

九州大学・言語文化研究科（研究院）・准教授

研究者番号：３０５１０７１３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：近代社会の成立やプロテスタント神学の特徴として重要な「契約」という概念とリスク管理の一形態として発展した「保険」という制度の二つをテーマに据え、この２点の形成、変容を主要なアメリカ文学作品から明らかにする研究を行なった。具体的には「アメリカ文学とお金」というシンポジウムを企画開催した（2013年）。また、「スモールタウン」「ロードナラティブ」というアメリカ文学の２ジャンルが象徴する経済観念の違いについて研究発表を行なった（2014年）。さらに「保険」が頻出するPaul Austerの作品群において登場人物たちが死者と結ぶ金銭的契約の意味を明らかにした論文を発表した(2016年)。

研究成果の概要（英文）：Changing concepts of “contract,” one of the most crucial viewpoints in American studies, and shifting images of the U.S. insurance business were the two major themes in this American literature study. To explore it under these themes, I organized a symposium titled “American Literature and Money” (2013), read a paper on the socio-economic differences in two major literary genres: “small town literature” and “road narratives” (2014). I also published an article on the contract-based relationship between the characters and the dead in Paul Auster’s fiction (2016).

研究分野：アメリカ文学

キーワード：アメリカ文学　金融思想史　経済思想　保険思想　社会史　Paul Auster

１．研究開始当初の背景
アメリカの共同体形成に大きな影響を与えてきた「契約」という概念と「保険制度」が持つ思想をアメリカ文学研究の中で交差させる研究は国内外ともにほとんど見当たらない、新規制の高い研究と思われた。しかし、一見この親和性の薄い二つの要素は、以下の点で学術研究に値する関連を示していた：

- 西洋文学の原点と言える古代ギリシアの詩人たちは、歴史的偉人たちと契約を結び、彼らの墓碑銘を綴っていたことから、文学と契約は古代より直接的に結びついていたという点。アメリカ文学者 Anne Carson が Economy of the Unlost の中で、契約と詩作という観点で哲学的文学批評を展開していることからも明らかである。また、死を前提にした契約という点では、この形態は保険思想に非常に強い関わりを持つと考えられた。
- 保険企業家としても活躍し、アメリカ文学史の中でも大きな影響力を持つ Benjamin Franklin をはじめとし、アメリカ独立期から現代に至るまで多くの重要作家が保険思想、保険制度と深い関わりを持っている。最近では、Sharon Ann Murphy の Investing in Life (2010)をはじめとし、アメリカ思想史の文脈で、保険制度の果たした役割を論じる文化人類学的研究が徐々に見受けられる状況であった。

２．研究の目的
本研究は、アメリカの共同体において、「契約」というピューリタン神学的概念が保険制度の思想と相互関係を持つのではないか、という仮定のもと、文学における両者の表象を比較することを目的として企画された。前者に関しては、国内外の研究者によって緻密な研究がなされてきたが、これを後者と結びつけ、社会経済の文脈で考察する研究はこれまであまり見られなかった。しかし、「神との契約」を精神的土台に植民地時代の共同体を築いたピューリタニズムと、保険制度の導入によって建国時のモデル都市となったフィラデルフィアなどの例を見ると、これらは「アメリカ的共同体の形成」という点で共通していることがわかる。アメリカ文学史全体を精神的概念と経済思想の関連性において再考することがこの研究の最も大きな基本的背景であった。

３．研究の方法
アメリカでの歴史的資料収集とその分析、アメリカ文学作品の読解・分析、関連批評の整理と検討を行なう。

４．研究成果
アメリカ文学の中に登場する「契約」は金銭を介在させない精神的なものであっても、金銭あるいは交換経済のメタファーを通じて表されることが多く、この特徴は、死者との関係においてよりつよく現れることが明らかになった。さらに、この研究を通して保険や契約などと関連の深い「リスク」言説の形成・継承・変容が英語圏文学の中にも立ち現れていることに注目するようになった。これを踏まえて、英語圏文学分析に数学や政治学、言語学の視点を取り入れた文理融合型の研究プロジェクトを開始した。もともと、文学研究に経済思想や金融史などの観点を持ち込んだ領域横断的なものとしてスタートした本研究であったが、さらに多くの学術的視点を持つ研究として発展させることができた。
具体的な成果については、以下、年度ごとにまとめる：

（平成 25 年度　2013 年度）
１）アメリカ（ニューヨーク）における情報交換、資料収集（2013 年 8 月）。「エイズと芸術表象」についてのセミナー（ニューヨーク市立大学）を受講。また、パフォーミング・アーツ分野における「新しい経済と新しいジェンダー・パワー」について研究協力者と共に訪問調査を行なった。

２）九州大学大学院言語文化研究院公開講座「文学と人生」シリーズの第 1 回講師を担当（2013 年 10 月 7 日）。「アメリカ文学の中の『お金』–お金から眺める人間関係」と題する講義を行い、16 世紀イギリス文学（トマス・モア）21 世紀のアメリカ文学までを概観し、「お金」の描写から読み取れる当時の世相、人間関係等を解説。これまでの研究成果を一般市民の方にも分かりやすく共有していただく機会を得た。

３）日本英文学会九州支部第 66 回大会でアメリカ文学シンポジウム「アメリカ文学とお金」の司会および講師を担当(2013 年 10 月)。パフォーミング・アーツ、小説、出版業の分野から研究者の方々をパネリストとしてお呼びし、アメリカ文学と「お金」についての芸術論、社会思想、ビジネス的現状を多角的に議論する機会を得た。

４）H24 年度（2012 年度）に開催されたポー学会でのシンポジウムの発表内容をシンポジウム報告として加筆修正の上、原稿化した。アメリカ文学作家と文芸誌創刊ビジネスの関係についてのリサーチを追加した。「ポーとオースター 雑誌文学者の系譜」(『ポー研究』 vo.5-6, 日本ポー学会, 2014 年,pp.38-48)。

（平成 26 年度　2014 年度）
１）日本英文学会第 86 回大会でアメリカ文学シンポジウム第 7 部門「ハイウェイとスモールタウンのアメリカン・ナラティヴ」の講師を担当（2014 年 5 月 25 日）。「ロードナラ

ティヴ」と呼ばれる、旅をモチーフとした小説を「移動」「定住」という二つの視点から読解すると、そこにはヘシオドスをはじめとする西洋の古典文学から続く「冒険」と「日常的勤労」という二つの経済活動および職業倫理の対立が読み取れること、また 19 世紀アメリカに発現したピューリタン的経済倫理が加わることによって、この対立軸に揺らぎが生じるという発表を行った。

2）ナサニエル・ホーソーン協会九州支部大会で個人発表「ホーソーンを捏造する―『ブルックリン・フォリーズ』における『緋文字』手稿の捏造について」を行った（2014 年 12 月 6 日）。アメリカ文学の代表作品『緋文字』（1850）の原稿を捏造して大金を稼ぐ、というエピソードが登場する P. オースターの『ブルックリン・フォリーズ』（2005）を取り上げ、アメリカ社会が市場経済化した 19 世紀から 9.11 を経験した 21 世紀までの時間軸の中で、文学作品という文化資産が経済資産へと変化していったアメリカ文学共同体の変遷について考察を行なった。

３）福岡大学アメリカ文学研究会の招聘で「アメリカン・ユートピアの経済学」という題で研究講演を行った（2015 年 1 月 31 日）。16 世紀イギリスのトマス・モアの空想小説『ユートピア』に始まるいわゆる「ユートピア文学」を現代アメリカ文学作品までたどりながら、そこに見られる文筆家、作家たちの経済観念の変化について論じた。ユートピア的共同体と親和性のある社会主義思想から、互助性の強い保険思想への変化など、大変興味深い理念的推移が文学作品の中にも描かれていることを述べた。

（平成 27 年度　2015 年度）

最終年度となった平成 27 年度は「契約」と「保険」の観点から３年間の研究の総括を行ない、さらに発展的な学際的研究プロジェクトを立ち上げた。

１）　今後に向けた発展的な試みのひとつとして、アメリカ経済と食文化という観点からアメリカ人小説家 Monique Truong の小説を読解・分析した。これは Truong 氏本人を交えての講演会の一部として結実した。（2015 年 5 月）

２）New York Public Library, Morgan Library を訪問し、それぞれの資料室での未発表原稿や書簡などの貴重な資料閲覧とデータ収集も行なった（2015 年 9 月、2016 年 3 月）。

３）熊本県立大学文学部の特別講義にて「アメリカ文学の中のお金」というテーマで講師を務めた。これまでの研究成果をもとに、領域横断的な文学読解の手法を文学専攻の学生に向けて発信することができた（2015 年 12 月）。

４）これまで度々取り上げてきた Paul Auster の作品群について論文「P. オースター作品における死者とお金」にまとめた（『英語英文学論叢』第 66 集 九州大学英語英文学研究会 51-63, 2016 年 3 月）。Auster に関しては、この３年間の研究に基づき、「死」や「お金」「契約」といった観点からより詳細に彼の文学世界を論じた単著を執筆中であり、近く刊行の予定である。

５）さらに、この研究を通して保険や契約などと関連の深い「リスク」言説の形成・継承・変容が英語圏文学の中にも立ち現れていることに注目するようになった。これを踏まえて、英語圏文学分析に数学や政治学、言語学の視点を取り入れた文理融合型の研究プロジェクトを開始した（2015 年 10 月~）。もともと、文学研究に経済思想や金融史などの観点を持ち込んだ領域横断的なものとしてスタートした本研究であったが、さらに多くの学術的視点を持つ研究として発展させることができた。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）
① 下條 恵子
「ポーとオースター 雑誌文学者の系譜」
『ポー研究』vol.5-6, 日本ポー学会 2014, pp.38-48.

② 下條 恵子
「P.オースター作品における死者とお金」
『英語英文学論叢』vol.66, 九州大学英語英文学研究会 2016, pp.51-63.

〔学会発表〕（計 2 件）
①「死を、あるいはお金を与える」
下條 恵子
（日本英文学会九州支部大会シンポジウム、2013 年 10 月）

②「オッカムのトレーラーハウス」
下條 恵子
（日本英文学会全国大会シンポジウム、2014 年 5 月）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
下條恵子（SHIMOJO, Keiko）
九州大学大学院言語文化研究院・准教授

研究者番号：
３０５１０７１３

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし